

第12回持続可能性ディスカッショングループ

日時：平成30年4月16日（月）10時01分～12時04分

場所：虎ノ門ヒルズ8階 役員会議室

出席者：小宮山委員長、崎田座長、小西委員、関委員、土井委員、藤野委員、細田委員、横張委員、黒田人権労働・参加協働WG座長、勝野委員、後委員（松本委員代理）、田中委員、若林委員

○事務局 おはようございます。皆様、本日お忙しい中お集まりいただきまして、誠にありがとうございます。時間になりましたので、第12回持続可能性ディスカッショングループを開催いたします。

このディスカッショングループは、メディアの皆様にも公開させていただいておりますが、本日に限り、議事の2につきましては、今後、商標出願を予定して検討しておりますので、非公開とさせていただきます。

カメラ・スチールの皆様は冒頭撮影のみにさせていただきますが、ペン記者の皆様は会議傍聴可能とさせていただいておりますので、よろしくお願いいたします。

本日は、崎田座長を初め、各委員の皆様に加え、小宮山委員長、それから人権労働・参加協働ワーキンググループの黒田座長、並びに国及び東京都から御出席いただいております。

なお、東京都の関係行政機関委員ですが、砂田覚オリンピック・パラリンピック準備局施設担当部長から、田中彰オリンピック・パラリンピック準備局運営担当部長に変更されております。

○田中運営担当部長 田中です。よろしくお願いいたします。

○事務局 また、環境局の小原昌担当部長から若林憲環境局環境政策担当部長に変更となっております。

○若林環境政策担当部長 若林でございます。よろしくお願いいたします。

○事務局 また、当組織委員会におきまして、4月1日付で森浩志総務局次長が就任いたしました。

○森総務局次長 森でございます。よろしくお願いいたします。

○事務局 また、持続可能性担当副部長として徳弘欣也副部長が着任いたしました。

○事務局 徳弘でございます。よろしくお願いいたします。

○事務局 それでは、プレスの皆様、もし撮影されている方いらっしゃいましたら、ここまでとなりますので、よろしくお願いいたします。

(プレス 退室)

○事務局 それでは、以降の議事進行につきましては、崎田座長をお願いいたします。

○崎田座長 皆さん、おはようございます。ありがとうございます。

今日は、小宮山委員長にもお越しいただいておりますので、ぜひ、途中でいろいろと意見を言っていただくとか、よろしくお願いいたします。

何か最初に一言よろしいですか。

○小宮山委員長 いえいえ。

○崎田座長 わかりました。

それでは、進めさせていただきたいと思っておりますけれども、私、実はちょっと一言御報告をさせていただきたいのは、土曜日に国際会議から戻ってきたんですが、開催がインドだったんですね。インドに45カ国が集まって、アジア太平洋の3Rを考えるフォーラムだったので、もちろんサーキュラー・エコノミーなど話し合う会議だったんですが、インド自体は、きれいな水、きれいなまち、きれいな空をキーワードにして、自治体やNGOを巻き込んで、本当に今、まちをきれいにして、変わろうとしているという、そういうことを非常に強く感じました。

いろんな意味で、世界と情報共有しながら変わろうとしている国があることを目の当たりにしましたが、東京2020大会の場も多くの方と一緒に取組む場ですので、持続可能な取組が広がっていけばいいなと心から願ってまいりました。

それでは、始めていきたいと思っておりますが、今日の進め方について、もう少し御説明をお願いいたします。

○事務局 お手元の持続可能性ディスカッショングループ議事次第を御覧ください。

本日は、1の持続可能性に配慮した運営計画第二版について、(1)ですが、第11回持続可能性ディスカッショングループ及び第8回街づくり・持続可能性委員会における意見について。(2)としまして、持続可能性に配慮した運営計画第二版(案)について。(3)として、今後の予定について御説明をし、委員の皆様にご議論いただきたいと思います。

また、2のその他のところですが、東京2020大会の持続可能性の配慮に向けた取組を包括する発信につきましては、冒頭御説明さしあげたとおり、商標出願の観点から非公開で

御議論いただきたいと考えております。

○崎田座長 ありがとうございます。

それでは、今日は1番、2番の話とそれと次に非公開で少し意見交換が最後にあるという、そういう流れで進めていきたいと思っております。よろしく申し上げます。

では、資料もたくさん出ていますので、資料に関する御説明も事務局からお願いいたします。

○事務局 それでは、資料のほうについて御説明いたします。配付資料1から資料5、それから参考資料ということでおつけさせていただいております。

資料1といたしまして、本ディスカッショングループの委員の方々の名簿でございます。資料2といたしまして、先日行われております3月19日のディスカッショングループ及び3月29日に行われました街づくり・持続可能性委員会の御意見をおつけしております。資料3といたしまして、本日御説明させていただきます持続可能性に配慮した運営計画第二版（案）の概要のパワーポイントの資料でございます。それから資料4といたしまして、同計画の本文全体の資料の（案）ということでおつけいたしております。最後に資料5といたしまして、運営計画第二版の策定スケジュールの資料をおつけしております。

一番後ろに、参考資料といたしまして、持続可能な開発目標（SDGs）とターゲットについての資料をおつけしております。

配付資料については以上でございます。

○崎田座長 ありがとうございます。

もし、資料に何か過不足ありましたら、事務局のほうにお知らせください。

それでは、資料2のほうに進めていきたいと思っております。第11回の持続可能性ディスカッショングループと第8回街づくり・持続可能性委員会、ここが出た主な御意見に関して、その状況を御説明いただきたいと思っております。よろしく申し上げます。

○事務局 それでは、資料2について御説明をさせていただきます。3月19日及び3月29日に御議論いただきました内容について御説明をさせていただきます。

まず、3月19日に行われました持続可能性ディスカッショングループにおける御意見でございます。

こちら、まず全体の今回19日では、全体の構成について御説明をさせていただいたところでございます。その中で、冒頭部分、SDGsについて多くの御意見をいただいております。

かなり多くの御意見いただいておりますけれども、要約をさせていただきますと、これまで私どものほうでは、SDGsと本計画の関わりについて、色の濃淡でお示しをした資料として御提示をさせていただいておりますけれども、それについて、その方法でいいのかどうかという御意見をいただいております。

また、国際社会への発信の方法としてきちんと伝わるもの、あるいは東京大会としてどう取り組んでいくのかというところ、こういったところについて御意見をいただいております。また、これらのSDGsについては、各ワーキンググループでも御議論をいただくよにということで、御指摘をいただいたところでございます。

また冒頭部分について、2ページ目でございますけれども、人権に関する記述が少ないという御意見をいただいております。

それから、2章のところについては、大気・水・緑・生物多様性等についてといったところでございます。こちらにつきましては、日本の歴史やそういったものとの調和がとれたものといった観点。

また、製造・流通等に関する目標については、負荷の最小化だけではなく、環境をよりよくしていく観点というものが大事だという御意見をいただいております。

また、大会を契機にしっかりと変わっていったことを示していくことや、東京都や国及び全体との連携といったものを記述すべきという御意見をいただいております。

また、人権部分及び参加・協働部分につきましても、こちらも記述を充実させていくべきという御意見をいただいております。

続いて、3ページ目でございます。第3章・4章ということで、こちらにつきましては、主に我々の進捗状況の御説明であるとか、進捗管理についての記述でございますけれども、調達コードについて、木材に関するさまざまな御指摘に対応すべきとの御意見、あるいは、それに対する組織委員会の対応についての御意見をいただいたところでございます。

また、ISO20121及びそのマネジメントというところで、3章と4章の執行体制の明確化といった御意見。また、その進捗状況をどのように機能し、全体をチェックするのかという御意見をいただいております。

また、この全体の取組を包括するようなもの、こういったことの御議論をこういった場で行うべきだということで御指摘をいただきまして、本日、御議論をこの後いただく予定でございます。

続きまして、4ページ目でございます。こちら、先月29日に行われました街づくり・持

続可能性委員会における御意見でございます。

こちらにつきましては、計画全般の御意見といたしまして、英語と連動してつくっていくべきといった御意見。また、持続可能性の地球、人間、社会という三つの軸の観点から見ると、「人間×社会」といったところが弱いということで、これらの御意見をいただくべきということでございます。

また、その29日の委員会におきましても、SDGsについて幅広く御議論をいただいております。私どものSDGsについて、SDGs自体を広報するものなのか、あるいは大会としてSDGsを照らし合わせてつくっていくものなのかという御意見。こちら両方取り組んでいくという御回答をこの場でもさせていただいているところでございます。

また、SDGsとスポーツとの関係、また、先進国の課題として、エイジングが入っていないというところの御指摘でございます。

また、5つの我々の運営計画の主要テーマとSDGsとの位置づけをそれぞれ明確にすべきといったところ、あるいは、明確にポンチ絵のようなものを示して、わかりやすくお伝えしていく。

また、最後のところでは、史上初のSDGsオリンピックであると言えるような形にすべきだという御意見をいただいております。

5ページ目でございます。こちらにつきましては、気候変動や資源管理について、個別の御意見としていただいております。

気候変動に関しましては、自然エネルギーの観点であるとか、暑い時期の開催の観点ということで、非常にエネルギーを消費する点。また、その交通需要マネジメントが必要だという点、御意見いただいております。

資源管理につきましては、容器包装の削減であるとか、そういったものを有機材の使用といったことの御意見をいただいております。

大気・水・緑・生物多様性等につきましても、やはり、ここでも暑さが非常に重要な課題であるというところ。また、外来生物対策への取組、あるいは里山や里海、里川といった概念も触れるべきという御意見をいただいております。

6ページ目でございます。こちらは、人権・労働、公正な事業慣行等への配慮について御指摘をいただいております。

こちら、誰も取り残さないというSDGsの概念に即して、人権ということを念頭に置いて、SDGsとの絡みを考えていくべきという点ですね。あるいは、その労働に関しても、災

害時への対応も考慮すべき。

また、公正な事業慣行につきましては、「目指す」だけではなくオーディットの仕組みを入れなければ実効がないという御意見でございます。

また、ハラスメントや時間外労働への対策、また、国や民族、宗教への配慮、また、その働き方や人生100年時代という長寿化に対する対策といった観点も必要ではないかという御指摘いただいております。

参加・協働、情報発信につきましては、マスコットは非常にいい取組だということで、こういったものの数値の可視化をしていくべきだという御指摘でございます。

また、他の地域が展開することを意識してつくるべきというところ。

また、都市と過疎との問題。これは先ほど冒頭も御意見ありました「人間×社会」の観点からの重要なポイントであるという御指摘をいただいております。

最後、7ページ目でございます。こちらで、委員会の場でも調達コードについて御意見をいただいております。

木材の認証等につきまして、NPO等からの批判について受け止めるべきであるという御指摘。また、そういったNPOの方には知識があるということで、それを利用して、そういった知識を活用して進めるべきという御指摘でございます。

また、国際社会、または国内における調達コードの位置づけについての御意見。また、組織委員会としての今後の方針を示していただきたいという御意見をいただいております。

また、こういった取り残されているところを引き上げるというSDGsの観点の中で、調達がそういった中では一番出るのはないかという御意見もいただいているところでございます。

資料2については、以上でございます。

○崎田座長 ありがとうございます。

それでは、この段階で御質問・御意見のある方、おっしゃっていただければと思いますが、最近のこの委員会を出していただいた御意見をまとめていただいております。これをもとに内部で検討し、加筆修正できることは、今回この後の資料3、資料4のところに反映していただいている。ただし、それがどの程度の反映になっているかに関しては、またいろいろじっくり見ていただく必要はあるかと思っております。

というような状況ですけれども、何か御質問・御意見などを。進めてよろしいでしょうか。

小西委員、お願いします。

○小西委員 まとめ、ありがとうございます。

1点だけ。この間、調達ワーキングの報告をこの親委員会でも、ぜひお聞きしたいとお願いしたんですが、今日はそれはありますでしょうか。

○崎田座長 ありがとうございます。

事務局はいかがですか、調達ワーキングの報告はというお話がありましたけれども、今日のプログラムには入っていませんが、その辺に関してお話しいただければ大変うれしいですけど、よろしくお願いします。

○事務局 本日の議論の最後のほうで御報告さしあげる予定でございました。調達コードについては、昨年から実施をしていたところでございますが、個別分野の基準について、随時策定してまいりました。

このうち、紙とパーム油の調達基準について、昨年秋から検討してまいりましたが、検討案を年度末にパブリックコメントに諮り、その御意見を踏まえ、最終案を策定し、先週末の調達ワーキングでお諮りしたところでございます。そちらで御了承を得たところでございますので、若干修正を加えた上、6月の理事会に諮る予定です。

当日使用された資料及び議事録につきましては、このディスカッショングループと同様に一般の方にも御覧いただけるようにしてまいりたいと思っております。

また、木材につきましては、これまでのワーキンググループやディスカッショングループで御意見をいただいておりますので、見直しも含め、今後の調達ワーキンググループで検討していくことになりましたので、あわせてお知らせいたしたいと思っております。

以上でございます。

○崎田座長 ありがとうございます。

よろしいですか。

○小西委員 はい。

○崎田座長 はい、わかりました。

調達の管理の中で、特に御意見の多い木材に関して、意見交換を深めていくというお話がありました。よろしくお願ひしたいと思ひます。

よろしいですかね。

(なし)

○崎田座長 それでは、意見交換進めていきますので、何かありましたら、その中でどん

どん御発言いただければありがたいなというふうに思います。よろしく申し上げます。

それでは、資料の3の概要版というところの御説明をしていただく形ですね。よろしく申し上げます。

○事務局 それでは、運営計画第二版の取組について御説明をさせていただきます。

説明につきましては、資料3をもとに御説明をさせていただきますけれども、一部御意見を反映させていただいた部分につきましては、資料4も少し御覧いただきながら御説明をさせていただければと思っております。

それでは、資料3のほうから御説明をさせていただきます。こちら、運営計画全体の概要をまとめた資料でございます。

まず、1ページのところでは、こちら、前回から御提示させていただいておりますけれども、計画全体の構成ということで、まえがきとして計画の位置付け、序章として64年大会からの歩みを御説明した後、1のところ、基本的な考え方。また2のところ、五つの主要テーマについて目標と具体策を記述しております。3のところでは、各主体別の行動計画と会場整備の関係の進捗の取組を御説明して、4のところ、こういった計画についてのマネジメントと実現に向けたツールについて御説明をしております。最後、Appendixとしまして持続可能性に配慮した運営の方針、またスポンサーの方々の取組の御紹介という全体像でございます。

次に2ページ目でございます。こちらも御提示をこれまでさせていただいた内容でございますので、簡単に御説明いたしますけれども、まえがきといたしまして、我々の運営計画の位置付けでございますとか、これまでのフレームワーク、第一版と取り組んで、そして運営計画第二版という流れでございます。

運営計画第二版につきましては、SDGsへの貢献ですとか計画の実施に向けたモニタリング体制、また、具体的な目標とそれに向けた施策を具体的に記載していくというところが特徴でございます。報告書といたしまして、2019年、また2020年に2回という形で、それぞれ進捗報告を行っていく予定でございます。

次に3ページ目でございます。こちらでは、東京大会の意義ということで、1964年大会からの変化を含め、これまでの取組と今後に向けた流れを御説明してございます。

1964年大会開催からの東京・日本・世界の歩みと状況の変化というところ。こちらにつきまして、特に、これまである程度しっかりと取り組んできた中でも、大きな課題に取り組んでいかなければならないというふうに書いております。

こちらにつきましては、先ほど冒頭でディスカッショングループ等でも、人権についての記述がやや不足しているという御指摘をいただきまして、具体的には資料4の7ページのところで、人権の記述についても加えた上で記述の更新をさせていただいているところでございます。

また、3ページ目の世界共通の決意と日本・東京の意思ということで、SDGsが共通の目標であると。それに向けて取り組んでいくことを示しているというところでございます。

続きまして、パワーポイントの4ページ目でございます。こちらが運営計画第二版の基本的な考え方ということでお示しをしております。

こちらの中で、特にかなり御意見をいただきましたのが、1.2の持続可能性の主要テーマでございまして、こちらが持続可能性の5つの主要テーマと、SDGsとの関係についての御説明でございます。

こちらにつきましては、具体的には、資料4の12ページ目をお開きいただければと思います。こちらにつきましては、本文のところで少し御説明を加えさせていただきます。

資料12ページ目のところで、SDGsにつきまして、少しSDGsそのものの御理解をいただくという視点も加味いたしまして、SDGsの考え方についての説明をまず、しっかりとさせていただいております。図表といたしましても、「SDGsを支える5つのP」という図表でわかりやすくお示しし、その後17の開発目標も、こちらも一般的に使われております図のほうで御説明を加えてございます。

また、13ページ目でございます。こちらにつきましても、これまで色の濃さと薄さということで、関わりをお示しした表をこれまでおつけしてはいたけれども、こちらにつきましても、そういった個々の議論というよりは、私どもの取組がどのようにSDGsに貢献していくのかということを中心に御説明をするような形に変更したいというふうに考えておまして、こちらにつきましては、各五つの分野ごとに、特に関わりが大きいものの例示をさせていただくという形で記述をさせていただいております。

例えば、気候変動の部分、13ページ目の真ん中から下でございますけれども、例えば既存競技会場や交通網を見直すといったところが、SDGsの11、12、13といったところに該当する。あるいは再生可能エネルギーの最大限の利用といったところが、ターゲット13.3に結びついていくというような形で、我々の主要な取組が具体的にどう結びついているのかというのをそれぞれの分野で御説明をさせていただくような記述に変えさせていただいているところでございます。

それでは、パワーポイントの資料に戻っていただきまして、4ページ目でございます。基本的な考え方といたしましては、それ以下ですね、1.3から1.6につきましては、我々の組織または適用の範囲、また、持続可能な発展の統治原則ということで、四つの原則を掲げてございます。

また、マネジメントの仕組み、ツールといたしまして、ISO規格の導入ですとか調達コードについて触れておりまして、こちらにつきましては、最後、第4章のところでも改めてしっかりと御説明を加えているというところでございます。

○事務局 続いて、5ページ目から主要テーマごとの施策の概要ということで、御説明いたします。

5ページ目は気候変動のページでございます。気候変動の分野、大目標としましては、「Towards Zero Carbon」ということで、この分野での全体的な方向性といたしまして、パリ協定がスタートする2020年に開催される東京大会において、可能な限りの省エネ・再エネへの転換を軸としたマネジメントを実施していくことにより、世界に先駆けて脱炭素化の礎を全員参加で築くという方向性で進めたいと考えております。

6ページ目には、気候変動の分野の取組を示してございます。これまでカーボンフットプリントを算定の上、どのような回避、削減、相殺などの対策をやっていくのか。また、それらを全体としてどうカーボンマネジメントしていくのかという御議論をいただいたところでございました。

7ページ目にまいりまして、気候変動分野の目標ということで、12個の目標を検討しているところでございます。建設の分野、また運営の分野、その中における再エネの指標、出てくるCO₂に対するオフセットというところで目標を立ててございます。

8ページ目以降、目標の概要を示してございます。まずは、幾つか言及いたしますと、目標の1としましては、既存の会場をできる限り活用していく大会であるというところ、それによるCO₂削減というところを一つの目標として上げてございます。目標2、3、4につきましては、会場または運営の中で使用する物品について、省エネ、環境性能の高いものを用いていくという目標を掲げてございます。目標6におきましては、運用においてエネルギーの管理等をしっかりとやっていくというところ。また、目標8におきましては、輸送におけるCO₂の削減をいかにしていくのかというところでございます。

11ページ目にまいりまして、目標10、11のところでございますけれども、再生可能エネルギーの最大限の利用というところで、運営時の電力等につきましては、再生可能エネル

ギーの電力を100%使っていくという目標を掲げて進めていきたいと考えてございます。

気候変動の御説明については以上でございます。

13ページ目に移らせていただきます。資源管理の分野につきまして、資源管理の分野におきましては、「Zero Wasting、～資源を一切ムダにしない～」という大目標を掲げまして、この分野の全体的方向性といたしましては、サプライチェーン全体で資源をムダなく活用し、資源採取による森林破壊・土地の荒廃等と、廃棄による環境負荷をゼロにすることを目指して、全員で取り組むという方向性を示してございます。

14ページ目に取り組の考え方を示してございます。これまでこういった優先順位で資源管理の分野を進めていくのか。また、大会にはどのような資源が関わってくるのか。それに対してどのような視点で目標設定していき、また、廃棄物の適正な分別、適正な処理、それに対する管理通信体制というところについて、御議論を進めてきたところでございます。

15ページ目のところに、資源管理分野の目標というところで、10個の目標について掲げてございます。

16ページ目以降、内容につきまして簡単に御説明いたしますが、まずは、リデュースという観点におきまして、食品のロスを削減していくというところ。また、大会で使われる容器包装等の削減を進めていくというところ。

17ページ目にまいりまして、大会で用いられます調達の物品につきましては、可能な限り再使用・再生利用を進めまして、基本的には、調達物品については99%再使用・再生利用を進めていきたいという目標を掲げたいと考えてございます。

18ページ目に移りまして、目標の6のところでございますが、大会の運営時におきましても、運営時の廃棄物というのが出てまいります。こちらにつきましても、基本的に日本の中で進められている再使用・再生利用のところは進めていくというところで、65%の再使用・再生利用率を確保したいという目標を検討してございます。

19ページ目に移りまして、目標9のところでは、再生可能資源の持続可能な利用というところで、ビレッジプラザ等におきましての木材の利用というところを進めてまいりたいと考えてございます。

20ページ目にまいりますけれども、管理・推進体制というところで、廃棄物の発生量の把握であったり、そういうような物品や廃棄物にしっかりと対応していく、そういった管理組織の構築をこれからも進めていくというところでございます。

○事務局 続きまして、21ページの大気・水・緑・生物多様性等でございます。こちらの

大目標としては、「City within Nature/Nature within the City」ということで、「自然共生都市の実現」と日本語では表記させていただいております。これ、これまでも御提示をさせていただいてきた案でございます。都市が自然の中にある都市という概念、また都市の中に自然がある概念ということで、どちらが優位というわけではなく、都市と自然とが共存した都市という状態を示す言葉として、御意見をいただきながら御提示をさせていただいたところでございます。

また、この分野の方向性といましては、大会後のレガシーも見据え、大会の開催を通じて豊かな生態系ネットワークの回復・形成を図るという点。また、快適さとレジリエンスを向上させるという点で、新しい都市のシステムの創出に寄与していくということで、提示をさせていただいております。

22ページ目でございます。こちらがこの分野の前提といえますか、そういった部分でございます。先ほどのディスカッショングループ等でも御意見をいただきました里山や海の恵みといった観点。また、私どもの都市の中の自然というところ。また、ヘリテッジゾーンという歴史ある自然と、ベイゾーンの新たに生み出されている部分、あるいは回復させていく部分といったところが混在をしているというところを踏まえまして、要は人間の活動が都市の環境を向上させていくという都市のモデルの実現に貢献をしていくというものでございます。

目標は、1から3の三つ掲げてございます。一つは、水環境の向上と都市の環境の快適性を向上させていくという点。2点目としましては、生物や緑地、水辺環境といった、そういった緑や生物多様性の配慮によって、生態系ネットワークを有する都市環境の創出といった点。3点目は、調達に関する環境汚染の防止や生物多様性への配慮といった観点を提示させていただいております。

23ページ目として、具体的な取組を上げさせていただいております。

目標1というところに関しましては、これまでも御意見いただきました暑さ対策につきましては、各国、組織委員会だけではなくて、各関係省庁、また東京都の各部署の方々と連携しながら取り組んでいくというところで、そういった方々の取組も含めて、一体的に取り組むような記述をさせていただいております。

具体的には、会場、情報発信、大会運営、またその参加・協働といった各分野で、それぞれの取組を書かせていただいているところでございます。また、2点目といたしましては、大会における化学物質や大気・土壌への配慮といった点。また、水循環では、大会施

設の水循環や水資源の有効利用といった点ですとか、お台場の水域における水質への対策といったところも検討させていただいているところでございます。

24ページ目は、都市としての取組ということで、少し広い観点で、行政における取組も記載をさせていただいております。こちらについては、2020年や大会に向けて一つの数字も掲げて取り組まれているということで、そういったところも含めて具体的な数字を書かせていただいているところでございます。

続きまして、目標2の緑地や生物多様性の観点への目標の取組でございます。こちらは、まず大会といたしましては、競技会場等の緑化。こちら、既存樹木への配慮や在来種への植栽をやっていくという点。また、都市の観点からいいますと、水と緑のネットワークを整備していくといった点。

また、25ページ目に入りますと、生物多様性の確保ということで、各公園で、かなり会場に隣接した公園も数多くございますので、特に葛西海浜公園については、東京都のほうでラムサール条約登録に向けた取組も含めて、会場周辺一体となって環境整備しているところを書かせていただいているところでございます。

また、御意見のありました外来生物対策につきましても、防除や注意喚起の取組を実施されているというところでもここに書かせていただいて、引き続き大会としても何ができるかを検討していきたいというふうに思っております。

最後、目標3につきましては、大会の調達の観点でございます。1点目は、調達における環境汚染の防止や化学物質の管理といった点を書かせていただいているところでございます。

また、26ページ目といたしまして、同じく、調達等における大会において生物多様性に配慮した資源の消費というところで、少し視野を広げておりまして、サプライチェーンの観点ですとか、あとは農産物の観点で有機農業を初めとして、都内産、国内産の利用。また、大会を契機としたGAP認証の拡大といった取組も御紹介をさせていただいているところでございます。

最後、管理・推進体制としましては、組織委員会としてしっかりと進捗管理をしていく旨を書かせていただくとともに、6)の最後、参加・協働・情報発信のところ、これまでもこの分野、いろいろな方々が参画をいただいて取り組まれているところでございますけれども、大会としてもこういった参加機会の協働が何ができるかということで、引き続き検討させていただきたいというふうに思っております。

続いて、27ページが、人権・労働、公正な事業慣行等への配慮でございます。こちらにつきましましては、この分野とそれからその後の参加・協働、情報発信の部分につきましまして、今年、年明けからワーキングのほうで多くの御議論をいただきまして、その御議論を踏まえて今回御提示をさせていただいているものでございます。

大目標といたしまして、「Celebrating Diversity ～The Most Inclusive Games Ever～」ということで、「多様性の祝祭 ～誰もが主役の開かれた大会～」というメッセージを書かせていただいております。

その大目標を具体的に示した御説明が下の方向性についてでございます。こちらで大きく3点御提示させていただいております。

一つは、ダイバーシティ&インクルージョンということが、非常に大きなキーワードということで、まずこちらで、あらゆる分野でのこのダイバーシティ&インクルージョンの確保に努めるということを書かせていただきます。

続きまして、2点目としましては、2011年に国連で採択をされております「ビジネスと人権に関する指導原則」。こちらにつきましましては、2024年のパリ大会以降が具体的に各オリンピック・パラリンピック大会での義務にもなってくるということでございますが、東京大会は、それに先駆けて実施していくという意思を込めまして、この指導原則に組織委員会として則って大会運営や準備運営を行うというふうに書かせていただいております。

また、私どもの管理し得る範囲外につきましても、極力そういった人権への負の影響についても防止又は軽減されるように努力をしていくという旨を書かせていただいております。大会の全体としても、各個別に漏れなくこういった差別の案件、例えば性的指向、性自認といったこと、それから年齢、障がいの有無といった関係の一つ一つ取り上げさせていただいて、こういった差別がないということ。また、児童労働や強制労働、過重労働といった労働の分野への配慮といったところも、具体的に触れさせていただいているところでございます。

最後の三つ目といたしましては、腐敗行為や反競争的な取引に関与しない公正な事業慣行を確保するという、この3点を書かせていただいているところでございます。

おめくりいただきまして、28ページ目のところが、分野における目標というところで書かせていただいております。大きく1から10と11から14に分かれてございます。

1から10のところが、人権労働等を尊重した取組ということで、大会に関わる方々の人権の尊重に向けた取組。主に研修ですとかアクセシビリティの観点を書かせていただいております。

おります。2点目が労働について。3点目が公正な事業慣行について。最後、調達についてということで、各分野をそれぞれ目標を掲げて取り組んでいく旨を示しております。

また、11から14につきましては、人権の問題が発生したときにどのように対応していくのか、どのように救済をしていくのかというところを本運営計画で、これもワーキングの皆様への御議論いただきながら策定をさせていただいたところでございます。

具体的には、31ページのところを少し見ていただければと思います。こちらに、今回、御議論いただいて書かせていただきました。目標11が体制をつくっていくところで、何をしていくのかというところが、目標12から14に書かせていただいたところでございます。

目標11といたしまして、人権の配慮に当たっての連絡体制の整備や状況の適切な把握ということで、冒頭申し上げました「ビジネスと人権に関する指導原則」に則って、こういった体制を整備していくという点。

丸の二つ目が、加害者への是正の対応。これが目標12に当たります。また、調達コードに係る通報受付窓口の適切な運用。こちらが目標13に当たるところでございますが、こういったところの確認ができる体制を構築していくということを述べております。

また、その下の丸の三つ目でございますが、ほかの組織を通じて影響を及ぼす範囲。こちらが、我々組織委員会が直接管理する以外の部分でございますが、そういったところにつきましても、関係機関に迅速な連絡や依頼ができるような連絡体制を整備していくというところが、目標14の部分を実施していく体制づくりということを述べているところでございます。

最後、32ページ目をお開きいただければと思います。5つの取組の最後の部分でございますが、参加・協働、情報発信（エンゲージメント）の部分でございます。

こちら「United in Partnership & Equality」ということで、「The Most Inclusive Games Ever」、この二つ目のキーワードは、人権の部分と同じキーワードを掲げさせていただきまして、パートナーシップというキーワードをしっかりと入れさせていただきまして、「誰もが主役の開かれた大会」という、人権の部分と共通のメッセージをここで掲げさせていただいております。

方向性といたしましては、国境や世代を超えた様々な主体の方が参加・協働をできるというところ。また、こちらでも非常に、ここの部分でもやはりダイバーシティ&インクルージョンという言葉が非常に重要ということで、こちらでも書かせていただいております。これらを含めて、誰もが主役の開かれた大会を多くの方々の参加により創り上げていくと

いうところでございます。

こちら、SDGsのゴール17にパートナーシップという言葉が上げられてございます。こういったところも加味いたしまして、こういったキーワードと具体的な方向性を検討させていただいたところでございます。

33ページに当分野の目標について書かせていただいております。大きく四つ掲げておりました、一つは、様々な方々との連携。2点目としましては、人材の育成の観点。3点目は、国民参加型のプロジェクト型のものを進めていくという点。最後四つ目につきましては、情報発信を強化していくという点でございます。

具体的な取組としては、34ページ、35ページに掲げさせていただいております。幾つか具体例を紹介させていただきますと、34ページにつきましては、まず様々な主体との連携といった観点では、スポンサーの方々との連携ということで、私どもが設けさせていただいております「スポンサー持続可能性ネットワーク」の取組。また、会場のアクセシビリティのガイドラインであります「Tokyo2020アクセシビリティ・ガイドライン」を多くの方々の御意見を聞きながら策定をしてきたというところについて述べてございます。

また、目標2につきましては、人材育成という観点で、これ、私どものスタッフや今後御参加いただくボランティアの方々への研修ですとか、あるいは行政の取組との連携といったところも書かせていただいているところでございます。

35ページ目でございますけれども、目標3、国民参加型プロジェクトということで、御存じの「みんなのメダルプロジェクト」の実施であるとか、大学連携事業、また、その企画プログラムや教育プログラムといった、こういった個別のプログラムを今後も続けていきまして、先日、御議論も出ました、なるべく成果が見えるような形で、今後も御提示をしていければというふうに思っております。

目標4に関しましては、情報発信ということで、幾つか私ども日本の独自性であるとかライフスタイルといったところも含めて、必要な情報発信を大会に向けてやっていきたいというふうに考えております。

最後、36ページ以降は、実施主体別の行動計画・進捗状況ということで、各FA別の取組を少し細かい内容も含めて記載させていただいております。

また、3.2ということで、会場整備の関係。こちらにつきましては、既に会場整備のほうは運営に比べますと先行して取組が進んでいるということで、これまでの取組と今後の主な取組ということで、各競技場別というか種別ごとに、これまでの取組を御説明させて

いただいているところでございます。

最後、37ページ目のところが、本計画に実現に向けたマネジメント及びツールということで、ISO20121規格に則して実施していく点。また、その取組をしっかりとモニタリングをしていくということで、組織委員会全体で進捗管理をしっかりとやっていくというところをここでもう一度記述をさせていただいております、そういったモニタリングの結果を今後予定されております報告書のほうに反映をしていきたいというふうに思っております。

また、4.3のところに書かせていただいておりますけれども、今後、こういったディスカッショングループ、それから委員会でも御議論いただきながら計画策定を進めてまいりましたけれども、今後も引き続き御意見をいただきながら、取組は着実に実施していきたいという旨を記載してございます。

4.4と4.5につきましては、それぞれ調達コードの運用、また東京都のほうで行われておりますオリンピック環境アセスメントについて触れさせていただいております。

最後、Appendixといたしまして、持続可能性に配慮した運営方針でございまして、こちらにつきましては、ISO規格に基づいて、組織委員会として、要は持続可能な大会を行うに当たっての宣言をしていくといったものでございまして、運営計画にこれまで御説明してきました内容を、エッセンスをこちらで反映をさせていただいて、最後、集約をしていくという予定でございます。これまで御議論いただきました主要5テーマと目標等については、運営計画第二版の内容と整合をとらせていただいて策定をする予定でございます。

最後、巻末には、スポンサーの方々の取組を御紹介させていただいているというところでございます。

計画全体につきましては、以上でございます。

○崎田座長 御説明ありがとうございます。

皆さん、前回の持続可能性ワーキングのときには、最初のほうから一つ一つ項目を追って御意見をお話いただきました。そういう経過を踏まえて、全体まとめたのを今日、提示いただいたという形になっております。

今日の流れとしては、御意見をいただき、もちろん加筆、修正いただけるところはちゃんとして、その上でパブリックコメントに出していくということで、パブリックコメントに出す前の検討をしっかりといただくという、そういう理解で進めさせていただければと思いますが、事務局の皆さん、それでよろしいですね。

○事務局 はい。

○崎田座長 ありがとうございます。

ということで、今日は、前のほうから順番を追って御意見をいただくという形ではなく、やはりここまで来ましたので、全体を見ていただいた上で、少しこういう視点がとか、そういう全体観に関してお話しいただいたほうが今日はいいかなという感じがするんですけども。いろいろと御発言もあると思いますので、どういう視点からでも結構ですので御発言いただければありがたいと思います。

細田委員、真っ先に挙げていただきまして、ありがとうございます。

○細田委員 全体的に磨きがかかってきて、読み応えがある計画となっていると思います。その上で、2点意見を述べさせていただきます。

一つは、これは、まあ一つの計画概念ですからいいと思うんですが、具体的な施策への落とし込みということと同時に考えていかないと、空念仏に終わってしまう可能性があると思います。

例えば、ちょっとこの概要版ではなく、資料4の本体のほうでいきますと、46ページに、目標6、運営時廃棄物等の再使用・再生利用。例えばの話なんですが、ここに運営時廃棄物の再使用・再生利用率65%。まあ、うん、EUの最近の流れを見ても妥当な率だと思うんですが、この一体、内容は何か。容器包装なのか、それとも紙なのか、さまざまなものによって随分違うわけですね。それを本当に65%シュートしようとする、まあ、それ以上が望ましいんですけど、その具体的な問題も考えていかなきゃいけない。

これはこれでいいと思いますけど、具体的な施策をあわせて考え込んでいくようにしないと、この計画は未達になる可能性がある、それは修正とかそういうことじゃなくて、お考えいただきたい。

次はどちらかというと、第2点目、修正なんですが。この本文に資料4の67ページ及びその後にも調達のところに、今67ページ目ですけど、あとどこかな。その後、ちょっと待ってください。67ページと122ページですね、同じところがあるんですけど、これ、調達のところで、例えば67ページの真ん中辺のエというところで、最後に調達時における配慮方策の実施、実践ですね。そこで「さらに、木材、農産物」云々で、個別基準を設定している。その同じことが122ページにも書いてありますけど、これはこれでいいんですが、できれば、これ、今回もいろいろ問題がございましたし、継続的な改善の努力は必要だということがあると、この間、私ども発言させていただきましたインクルージョン、NPOですとか、ほかの団体とも常に連絡をとりながら、もうポリッシュアップしていくと。そう

すると、レガシーになっていくんですね、これ。ここで到達点ではなくて、次につなげるためには、やっぱり改善の努力ということを私は必要ではないかな。ほかの場所にも当てはまると思いますけど、特にこの調達に関しては、それが言えると思います。

以上でございます。ここは変えていただきたいと思います。

以上です。

○崎田座長 ありがとうございます。

今、御意見が出ました。最初のところ、細田委員は、ずっとこの委員会の中で、計画を立てるのはいいけれども、それをどういうふう to 実施をするのか。その実施の担保がなければ、やはりいけないという、そこを本当に強調してお話しをいただきました。

○細田委員 そうですね。

○崎田座長 ありがとうございます。

そういう意味で、資源管理のところの、例えば運営廃棄物のリユース・リサイクル目標65%、あるいは最初の施設の施設整備のことに関しては、99%とか高い目標数字を出しています。これは、みんなで検討の上で出した数字ではありますが、やはり実際にそこをしっかりと取り組むような形で落とし込んでほしいということです。

この辺、もしよろしければ、森次長、コメント一ついただければありがたいと思います。その後、67と122の調達のほうの御意見を、また皆さんと少しお話をしたいと思います。よろしいですか。

○森総務局次長 46ページの細田先生おっしゃいました65%を具体的に施策として展開するには、先生のお話のとおり、例えば会場ごと、あるいは施設ごとに、それぞれ発生する廃棄物の資源化の先、あるいはリサイクルの先が異なりますので、それぞれを積み上げて全体的が目標の65%になるような対策をどう作り上げていくか。より具体的にしていかなければいけないと考えています。俗に言う実施計画、あるいは作業計画と申しますけれど、それをつくりながら展開していくということが、より一層重要だと考えております。

以上でございます。

○崎田座長 ありがとうございます。今、そういう課題意識を持ってやっておられると。御指摘ありがとうございます。

それでは、二つ目の御意見なんですけれども、67ページ、122ページなどの調達に関してですね、これを実施するだけではなくて、これを継続的にレガシーとなるような、きちんとそういう視点を一言入れたほうがいいのではないかなという御意見です。

私自身の意見を申し上げますと、今回オリンピック・パラリンピックは、調達をしっかりと検討し、取り組んでいるということが、大きな挑戦というか、大事なことだというふうに思っていますので、それをしっかりとやっているんだということが、プラスに社会に発信されるような形になったほうがいいのではないかというふうな感じがしております。

今、割に言葉が弱いのではないかと、やっぱりそういうようなところで関心を高めていますが、私は、全体感としては、最初に調達ワーキングをつくって考えてきてくださったという流れから言えば、このオリンピック・パラリンピックというのは、日本の将来にとって持続可能な調達の大きな転換期になるのではないかなというふうに期待はしております。

それが、ちゃんと発信できるような形で、今、この文章だと「しています」という話になっていますので、「して取り組んでいく」とか、何かちょっと今後につながるような言葉を一つ入れていったほうがいいのではないかという、そういう御指摘と思います。

何かコメント一ついただければと思います。

○事務局 御意見ありがとうございます。

私どもも、この計画をつくって、これ切りということは考えておりません。運用がしっかりなされているかということは、継続して見ていきたいというふうに思っております。

調達コードにつきましては、本体にPDCAを回していく中で必要に応じて見直しをしていくものというふうに記載をしておりますが、調達コードに限らず、この運営計画全般につきましても、引き続きワーキンググループ等で進捗状況等について御議論をお願いできればと。来年の2019年の春には、報告書を出しますので、その中に進捗状況等も反映できればというふうに思っております。記載ぶりにつきましては、またちょっと検討させていただきたいと思っております。

○細田委員 ちょっと関連で、ごめんなさい。言い忘れたんですが。

○崎田座長 では、細田委員の次に土井委員、お願いします。

○細田委員 すみません。私になぜ、ここにこだわるかといいますと、今、この現時点で、NPOに批判され続けているわけですね、今回の調達に関しては。それに対して、やっぱり私たちは強いメッセージを出していかないと、この文章だと「あっ、安心しちゃったな」ととられてしまう可能性がある。そこはやっぱり、ポジティブメッセージを出して行って、我々のオリンピック・パラリンピックは違うんだと、変えていくんだということ、やっぱり私はあるべきだと思って発言させていただきました。

以上です。

○崎田座長 どうもありがとうございます。

それでは、土井委員、お願いします。

○土井委員 ありがとうございます。細田先生がおっしゃったことに同感なんですけれども、調達コード、あとグリーンバンスのメカニズムというものは、やはり日本では先進的なものだというふうに思うんですけれども、しかしながら、いろいろ残念な点がたくさんありまして、チャンスを十分、生かし切れていないというふうに感じます。

これは個人的には組織委員会のほうに申し上げているんですけれども、NPOとのステークホルダーのエンゲージメントの場というものをレギュラーなものとして設定しなくてはならないというふうに思います。言葉の問題がありますので、国内のNPOとのエンゲージメントの場と国外、国際的なNGOとのエンゲージメントの場とを両方つくる必要があるというふうに思っています。

今、この文章につくるとは書けないかもしれないですけども、それにつながるような言葉をぜひ書いていただきたい。実際ステークホルダーとのエンゲージメントが足りていないために、かわせる批判もたくさん受けています。このようなパブリックな批判になる前に対応することができたこともたくさんありますし、これからももっともっとたくさんの批判が出てくる可能性が十分ありますので、それを受け止めて、そして、ともに、一緒にこの調達コードの目指している社会を一緒につくっていきましょうというような場にしていく必要があるかと思います。

やはり、調達コードとグリーンバンスメカニズムがあっても、実際のコードの違反のほんの一部しか実際には対応はできないんですね。ですが、こういったエンゲージメントの場があれば、そうした氷山の一角以外の、本当はその後ろにあるさまざまな問題全体を解決していく方法を一緒に考える場にしましょうというふうにできます。そうすることで、グリーンバンスメカニズムが何件かの問題を見つけられたということだけではなくて、実際のビジネス慣行というものを変えていける、そういった機会になると思うんですね。

ですので、そういう積極的な意味でも、それから批判をかわす場としても、ステークホルダーエンゲージメントの場をぜひ、設定しなくてはならないと思います。

○崎田座長 ステークホルダーのお話、先でよろしいですか。

今、ステークホルダーとのエンゲージメントの話がいろいろ出ました。それで、一言申し上げますと、NGO、国内のNGOでオリンピック・パラリンピックの持続可能性に関心を持っ

ている団体は、今から2年前に、略称をSUSPON（サスポン）と言っていますけれども、ネットワークをつくって、いろいろ具体的な提案書などはもう出しているの、持続可能性の実際の検討の中で、そういう意見は、意見交換という場はつくってきているというような経過でいると思います。

それで、国際的なNGOの方との連携に関して、ここ最近の調達とか人権の関心の高まりの中で、今、急激にその分野を進めてきているという段階だというふうに思っているんです。

ですから、現実的には、かなりそういう意見交換は進んできていると思うんですが、具体的な発信として多くのNGOの方に届いていない面があるのかもしれない。そういうような理解もしていただければと思います。

なぜ私が申し上げるかという、私がここで座長をやらせていただいています、私、NGOとして参加しております。NGOとしてずっと持続可能なオリンピックを実施してほしいと言いつけてきましたので、こういうような流れになって、NGOなり専門家なりが対話の場をつくって、話し合っているということ自体が、かなり一歩進んだやり方をしているという感じでは見ております。ただ、それがしっかりと社会に評価されるように出していくということ自体、大事だと思います。

黒田かをりさんもNGOですかね。人権WGのところの座長を務めていただいております黒田さんも、NGOとしての御活躍ということでやっています。

そういう意味で、連携ができていないということはないけれども、安心感、何ていうかな、情報がつながっているというような形での発信力にはなっていないのかもしれない。○土井委員 ちょっとだけいいですか。すみません。SUSPONというものを今、ネットで拝見したんですけれども、わかりました。私の言い方がよくなかったの。人権・労働のNGOとのコミュニケーションがないと言うべきだったかと思いますね。このSUSPONを拝見すると、基本みんな環境のNGOで、多分ここがあるおかげで、環境のNGOとは、この組織委員会がしっかりとしたエンゲージメントができているのかもしれないと思うんですが、人権の関係との団体とは全くなくて、そういった面から、これからはいろいろ問題が起きてくると思います。

○崎田座長 ありがとうございます。

そういう意味では、あまり今までの日本の社会の中で大きく取り上げなかったというか、あるいは、もっと前面に出てもよかった分野ということに関しては、今、多くの関心を高

めているというふうに思います。

関委員は、その話では。

○関委員 ではない。

○崎田座長 すみません。今のNGOとの連携とかそういうことに関して、少し加えて御意見のある方いらっしゃいますか。

(なし)

○崎田座長 それでは……、そうか、小西さんもNGOでしたね。失礼いたしました。先ほどは名前が出てこなくて。

そういう意味で、本当にこの場自体は、そういう多くのNGOとの意見交換はできる場として機能してきたという、そんな形には考えております。ただ、みんなでいろいろ提案をさせていただいても、全部が、それが通るというわけではないわけで、それでこういう委員会でやりとりをさせていただいているという、そういうふうに考えていただければと思います。

ただ、もっともっとそういう場が増えていき、それによって、より社会と一緒にやっていくという気持ちを高めていくということは大変重要ですので、そういうポジティブなメッセージをどう出していくかというところをしっかりとみんなでやっていければと思います。

この関連でよろしいですか。じゃあ、黒田委員、先にすみません。

○黒田人権労働・参加協働WG座長 黒田でございます。

今の点に関しまして、例えば今回、人権労働・参加協働ワーキンググループというものができたわけですけれども、その中でいろんな方に、当事者の方、当事者に近い方、御支援されている方、権利擁護の活動をされている方にも、いろんな形でヒアリングということで参加していただきました。もちろん計画をつくるということも重要なんですが、実施において実効性を担保していくためにも、今回のようにエンゲージメントというものを、どういう形かわかりませんが、ぜひ続けていっていただきたいというふうに思います。

あと、先ほどSUSPONの話も出ましたけども、エンゲージメントは全て組織委員会が主体にならなくてもいいのかなと思います。例えば、外部の人たちがそういった場を設定して、組織委員会関係者の人を招くというような形もあると思います。ロンドンのときも、組織委員会とは別に、そういったステークホルダー・エンゲージメントに関して、別の組織が

いろんなところに声をかけて実施したということも聞いております。組織委員会が主体となるものだけでなく、外部の人たちからの呼びかけに積極的に参加していただくというような形でエンゲージメントができる可能性もあると思います。

以上です。

○崎田座長 ありがとうございます。

その辺、非常に大事な課題だということで、これからも、みんなで意見とか、あるいは状況をうまくつくっていきながら取り組んでいければいいなというふうに思います。

なお、一言、私も申し上げるならば、前回の委員会的时候に、それぞれ、社会にしっかり発信できるようなキラーコンテンツをしっかりとつくってほしいと、小宮山委員長が後半でおっしゃったことが、私はいつも頭にずっとこびりついているんですが。やはり、社会にしっかりと、今度のオリンピックでは持続可能性に真剣にやっているんだということがすごく伝わるような、具体的な実施部分をきちんと持つということは、そういう意味では、発信力という意味で、大事だというふうに思っています。

○小宮山委員長 ちょっと、一言、言わせていただきます。後から申し上げようかと思っていたのですが。エンゲージメントは2.5でしょうか。人権・労働が来て。前半は中身まで非常にできてきているのですが、人間という辺りになってきたところが弱いですね、2.4、2.5辺りが。

それで、この「参加・協働」、「情報発信（エンゲージメント）」と書いてあるけれど、エンゲージメントに情報発信という意味は入るのですか。英語の強い人たちに聞きたいです。

やはり、情報発信は日本の一番弱いところなのですよ。だから、ここを見ていて、場合によっては、情報発信を2.6にしてもいいのかなと思って拝見していました。

というのは、エンゲージメントということは、みんなで一緒にやるという意味で、これ自体は重要な情報発信なのだけれども、ほかにもいろいろあるわけで。最近では、要するにアフター・トゥルースですとか、フォールスですとか、もうコミュニケーションが成り立たない時代に入っているときに、オリンピックは非常にコミュニケーションの仕掛けなわけですね。

そこにどうやって情報発信するかということは、一つはキラーコンテンツなのです。この報告書、かなりよくなってきていると私も思っています。自画自賛ですが。しかし、これを読む人は関係者しかいないわけですよ。だから、結局、オリンピックをやって、100

メートルは何秒だという話にはなるけれども、その周辺で、一生懸命努力していたこういうものは、ほとんど反映されないわけです。ごく一部のみにしか。それは、もったいないと思います。

やはり、ここの各項目のキラーコンテンツみたいなものがが必要です。都市鉱山、メダルプロジェクト、あれは本当にエンゲージメントでもあるし、21世紀でもあるし、リデュース、リユース、リサイクルでもあるし、大事にしましょうというようなものでもあるし、あれはキラーコンテンツなのです。

そういうものが、例えば10ぐらいあって、今この再生可能エネルギーにするというのが入りましたね。エネルギーに関しては、これを福島の、例えば風力と太陽光でやるんだというふうになったら、これはキラーコンテンツになるんですよ。だから、そこまでできるかどうかわからないけれど、そういったような意味で、人権に関してもそうだし、キラーコンテンツがあって、それが2.6で、情報発信のツールと一緒にいって行くというような構造ができたらすばらしいなと思います。

質問に誰か答えてほしいのですが、エンゲージメントには、情報発信という意味はあるのですか。

あなた、英語は得意ではないのですか。

○崎田座長 いやいや。すみません。エンゲージメントって、みんなでしっかり取り組んでいくという。

○小宮山委員長 だから、それは参加・協働です。

○崎田座長 はい。この括弧は、情報発信についているわけではなく、参加・協働、情報発信についているという。

○小宮山委員長 だから、別に英語に文句を言っているわけではないけれども。情報発信というのは非常に重要ですから、独立な章にして、節にして、そこにキラーコンテンツを並べて、そのキラーコンテンツを見ると、ここで日本が何を言いたいのかと。要するに、21世紀の社会というものはこういうものにすべきなのだ我々は考えているのですというのを、キラーコンテンツの集合で発信できる、というようにできるとすばらしいです。

その上のほうは、できてきているのです。再生可能エネルギーとメダルをやって、それから、あなたのwithin何とかというもので。

例えば、多摩川でアユ釣り大会の世界選手権でも、オリンピックのサイドイベントとしてやれば、それはもう、まさに自然共生のキラーコンテンツになるのです。最初のほう

はいろいろ、何か考えればできそうなのです。そのほかに、アクセシビリティだとかヒューマンライツだとかいったような人権に関するところが弱くて、これに対するキラークンテンツがあればね。調達なんかもその一つかもしれないのです。日本は世界で初めてこういう調達をやったのだということが、何でもいいのです。木材じゃなくても。木材であればいいかもしれないけれど。

○崎田座長 ありがとうございます。

○横張委員 いいですか。ちょっと、今のものと関連して。

○崎田座長 わかりました。

じゃあ、横張委員、お願いします。

○横張委員 全く小宮山先生と私は同じことを申し上げようと思っております。大変に中身が練れてきたんですけれども、誰に対するメッセージなのかということが、いまひとつはっきりしないなど。つまり、情報発信として、これがどこに発信されようとしているのかということが、いまひとつはっきりしないということが私の感想でした。

体内的、対外的、両方にあえて分けると、対外的には、これは私が前から申し上げている点なんですけど、例えば東京圏が3,200万で、これは世界最大の都市圏を形成していて、今、世界的にも都市人口がもう、全人口の半分以上になったといったような現状下では、これだけの人口の集積というものをどうやってマネジしていくのかという、都市マネジメントという観点において、東京が世界に示す。特に、これから人口が急速に増えていくであろう途上国における都市に対するメッセージとして、東京がもたらすものというのは非常に大きいんだろうと。これが、しかもサステナビリティという観点からのメッセージであるという点が非常に大きいんじゃないかと思います。

それからまた、SDGsという観点で申しますと、世界の先進国の主要な都市というものが、高緯度地帯の冷温帯に所属しているケースが多いことに対して、東京はというと、事実上もう、暖温帯に相当するような、すなわち自然環境的には低緯度地帯の途上国の大都市、メガシティと自然環境を共有しつつ、しかしそれが先進国の中にあるという、その位置づけというものも、やはり東京がこれからメッセージとして発信していくところが非常に大きいんじゃないかと思うんですね。

その辺の東京の立ち位置ということが、いまひとつ明確ではない中で、ターゲットとしてどこを見据えているのかということがいまひとつよくわからないなということが一つ、対外的な点でございます。

それから、対内的な点については、これも既に、細田先生あるいは先ほどのエンゲージメントの議論の中で大分指摘されていた点ではございますけれども。特に緑や生物多様性に関しては、どうしても公共事業を通じてそれを実施していくという面が強いがゆえに、既存制度を前提としながら、既にやっていますとか、あるいは。これから2年のうちにやりますというメッセージがどうしても強くなってしまっているんですけども。

一方で、NPOであるとか、あるいは民間事業者などをうまく巻き込みながら、これからやっていきましょうとか、あるいはやってくださいといったメッセージももっと強くあっていいのではないかなというふうに思います。

ですから、必ずしも既存制度にのっとる、いわゆる土木事業、建築事業等を伴うような話ではない次元における緑や生物多様性等の配慮、これはもう少し強調されていいのではないかなというふうに思いました。

以上、対内と対外、両方において情報発信ですね、誰をターゲットに情報を発信していくのかというところをもう少し整理されると、なおよくなるのではないかなというふうに思います。

以上です。

○崎田座長 ありがとうございます。大事な御指摘をありがとうございます。

関連する点もあると思いますので、御発言いただきながらも、最後に、ちょっと、いろいろ伺います。

じゃあ、今までのこの話に明確につながるのは。関さんに随分待っていただいていますので。

○関委員 ありがとうございます。この運営計画自体は、時がたつにつれて、非常に充実したものになってきているなと思いますし、バランスもとれてきたかなというふうに思っています。

小宮山委員長のおっしゃったことに関連して、私も情報発信は非常に大事だと思うんですが、ちょっと2点ほど申し上げたいと思います。

一つは、ビジネスと人権に関する指導原則がこの中に盛り込まれておりますけれども、私の感覚からすると、現状はビジネスと人権・労働に関する章というか、節というか、その中の一部として入っているという位置づけかなと思うんですね。

この運営計画全体からすると、SDGsを非常に前面に出して、それを達成するための大会にしようというメッセージは出ていると思います。そして実は、ビジネスと人権とい

うものも、そのSDGsと不可分一体のものであって、むしろSDGsの一環として考えていいものだと思うんですね。SDGsの思想そのものが人権尊重にあるわけですから。

ですから、そのメッセージを、要するにあまり片隅に置かないで、もう少しSDGsと絡めて、「ビジネスと人権に関する指導原則」を実質上採用する初めての大会であるということ、もっと強くアピールしていいんじゃないかなと思います。それが1点です。

それから、先ほども出ていましたけど、都市の問題ですね。私、この計画の説明をお伺いして思ったことは、一つのキーワードは都市のレジリエンスというところだと思うんです。御説明を聞いた限りで、レジリエンスに関する記述というか、発信というか、あまり触れられていないなど。やはり、世界中の関心事項としては、都市、しかもレジリエンスということがあると思うので、そこをもっと世界に発信できるような事例も含めて、そういう大会にするというような観点もここに盛り込むべきではないかなと思います。

以上、2点を申し上げたいと思います。

○崎田座長 ありがとうございます。ビジネスと人権と都市のレジリエンスというところで。ありがとうございます。

じゃあ、小西さん、どうぞ。御意見をお願いします。

○小西委員 エンゲージメントなんですけれども、やはりエンゲージメントに一番重要なことは、さっきも、ちょっと、すみません、戻るんですけれども、細田委員とか土井委員がおっしゃっておられた、やっぱり外部からの、特に国際系からの声をいかにエンゲージする場をつくっていくかということは重要なことかなんではないかなと思っております。

もちろん、私も環境NGOの1人ですけれども、WWFが全ての環境NGOを代表しているわけではなく、前のロンドンのときには、そういったいろいろなNGOも含め、業界団体も含め、行政も含め、いろんな声を聞く専門の部署がありました。でも、今回の東京オリンピックは、それが明示的にない中で、調達ワーキングの事務局の方がすごく頑張ってくださって、そういった声があった場合には、ヒアリングに呼んでいただいたり、いろいろな場をつくったり、パブコメがあったりとかしているんですけれども、明示的にそういった国際環境人権NGOの声を、ここに行ってそれを話し合うという場が、今の場合では、あるわけではないので、やっぱり、さっき細田委員がおっしゃった、また土井委員がおっしゃったようなエンゲージメントをいかにプロセスの中に組み込んでいくかということは、一つ、非常に考えるべきポイントとして重要な点ではないかなと思います。それを一言申し上げたくて、ちょっと、戻って申し訳ないですけど。

○崎田座長 ありがとうございます。

じゃあ、先ほど挙がっていましたね。土井委員、お願いします。

○土井委員 小宮山先生の、人権系はまだキラークンテンツがないじゃないかという御指摘に関してなんですけれども。提案なんですけれども、関さんがおっしゃったとおりです。初のビジネスと人権原則五輪であるということは、何らかの具体的な内容を付け加えなければなりません、世界初のことですので、重要なことかなと思いますので、上にもっと持っていったいいんじゃないのという関さんの御指摘はごもっともです。キラークンテンツだと思って発信していくということがいいのではないかな。

あともう一つ、調達コードと、あと、グリーンスマメカニズムですね、これも本当にキラークンテンツだと思うんですよ。そうできるんだと思うんですね。ただ、今は残念ながらそういうふうには位置づけられていないんです。先ほど私が申し上げたように、ちゃんと市民社会とエンゲージをして、これをツールにして、ビジネスとの慣行を変えていくんだという位置づけに、キラークンテンツとしてちゃんと位置づけをして、前向きに取り組めば、これは当然キラークンテンツ化することができることだと思います。

ちなみに、調達って、人権だけじゃなくて、環境も入っているんですよ。なので、いつも人権のところに入ってますが、果たして本当はここでいいのかは疑問です。

あともう一個、最後ですけど。私としてはキラークンテンツになると思って、既に人権労働のワーキンググループのほうでは御紹介をさせていただいているプロジェクト案があります。今日はちょっと、その資料をこちらにはお出ししていないので、皆さんのお手元にはないのですが。

電通のBチームさんという方々がいらっしゃるんですけど、その電通のBチームさんが、東京大会をイノベティブな持続可能性へのチャレンジの機会にするということで、一つ御提案を下さっています。Bチームが会社としてやっているというわけではなく、Bチームの有志の方々が、個人的なグループとして提案してくださっているんですけど。

史上初のオリ・パラ混合リレー競技というものをエキシビションでやるという案ですね。その提案書によると、オリンピックとパラリンピックの間に、4,000メートル駅伝がいいのではないかな。400メートル×10人でリレーする競技がいいのではないかとおっしゃっているんですけども。この10人という人たちを、ダイバーシティな方々で構成することはどうかとおっしゃっておられるんですね。例えば、移民の選手だとか、少数民族の選手だとか、LGBTの選手だとか、高齢者の方だとか。いろんな方々からなる、ミックスチームと

呼んでおられましたけど、そういうミックsteamゲームというものをやってはどうですか。車椅子の選手が持てないバトンではなくて、たすきをつなぐ、日本ならではの駅伝スタイルというものがふさわしいのではないかとされているんですけど。これ、ぜひ御検討ください。

○崎田座長 ありがとうございます。

今、皆さんからお話を伺いました。あと、藤野委員、何か一言コメントをいただければ。

○藤野委員 すみません。ちょっと、細かいところだったんですけど。いいんですか。

○崎田座長 じゃあ、後で事務局にお話しいただいたほうが良いような流れであればあれですが。

○藤野委員 じゃあ、ちょっと1点だけ。

○崎田座長 そうですね。

○藤野委員 脱炭素ワーキンググループのほうの進捗も含めて、ちょっと御報告しておいたほうがいいかなと思うことは、4月6日に脱炭素ワーキンググループをやりまして、そのときには、オフセットのほうも、東京2020大会のルールみたいなものを決めて、それに即したオフセットのクレジットを活用していこうと。あと、再生可能エネルギーも、先ほど小宮山委員長からありましたように、福島も含めつつ、最大限、100%を目指して活用していこうとか。そのための、100%と言えるための内部調整などを今進めていただいています。

ちょっと、前回4月6日で議論したものが、必ずしもこの本体の資料4の文章に反映し切れていないところもあったので、これはまた、後ほど御指摘して。例えばデシジョンツリーの説明もまだ十分含まれていなかったりとか、先ほど言ったオフセットのルールみたいなものも表記されていなかったりとか。ちょっと、前の議論が、多分すごい忙しかったので、反映し切れていないんですけども、パブコメの前にはできるだけ反映していただいて、それをパブコメに持っていったらというところでちょっと、そういうところを気づいたので、指摘しようと思っていました。

以上です。

○崎田座長 ありがとうございます。

皆さんから本当に積極的に御意見をいただきました。ありがとうございます。

それで、私のほうから一つ。今日のまとめ方の提案なんですけれども、先ほどから皆さんの御意見の中で、大事な取組、キラーコンテンツになるようなものは、文言としてはか

なり入っている。先ほど土井委員がおっしゃったことは新しい御提案なんですけれども、それ以外の分野では、かなり入ってきている。そういうことをやはり発信力として、もう少し明確にするということは大事な御意見だというふうに思います。

それで、先ほど小宮山委員長のほうから、参加・協働の後に、一つしっかりとつけたほうがいいんじゃないかというふうなお話がありました。新しくつくるというよりも、私、参加・協働に委員として入っていた者として、人権・労働の次の参加・協働のところ、参加・協働、情報発信の情報発信というところがやはりあまりにも少な過ぎるので。資料の3でいいますと、35ページ、この目標3と4というものが、これがいわゆる情報発信のところの話ですけれども、こここのところをもう少し、目標の5辺りを入れて、明確にそれぞれの分野で、発信力強め、一步新しい社会を目指すような取組を、それぞれがどういうふうに計画しているのかというところを明確に、例えばこの辺でしっかりと幾つか入れていくというような、そういうページを増やすとか、ちょっと、そういうことも御検討いただければどうかというふうに思います。

やはり、今、中にそれぞれ、かなりいろいろなコンテンツは入っているけれども、それが社会に発信力として届いていないというようなことは非常に大事なことだと思いますので、そういう場を例えばつくっていただく。その上で、先ほど新しい御提案に関しては、またきちんと考えていただくという、そういうような流れにしたらどうかというふうに思います。

○小宮山委員長 情報発信を独立させるのは、今からは難しい、大変ですか。

○事務局 情報発信の項目を一つ……・

○小宮山委員長 これ言葉を、「情報発信」という言葉自体がいいのかどうか、コミュニケーションかもしれないのです。難しいですか。

2.6として立てておいて、充実はまた、これから図るということでも構わないと思います。大したことなければ、やったほうが僕はいい気がします。コミュニケーションですよ、これからは。

○事務局 形については、検討させてください。実は……。

○小宮山委員長 はい、検討してください。崎田さんのおっしゃったようなことでも、もちろん僕は構いません。

○事務局 はい。いただいたとおり、確かに発信というものが、今足りないと思っています。これから2のところ、非公開の場で議論させていただくところも、その発信のあり

方について議論をさせていただこうと思っておりますので。

また、後の議論を踏まえて、どういう形にしていくかということは検討させていただければと思います。

○崎田座長 ありがとうございます。

それでは、今のお話がありましたように、コミュニケーションという視点で、一つここにつなげるか、プラスするか、それともこの情報発信というところの中に継続するか、その辺のところを含めて、少し宿題が残りましたが、これは大変、後々、社会にとっては非常に大事な視点だと思いますので、もう少し検討を深めていただければありがたい。その上で、パブリックコメントに出していただき、その中でも少し改善しながら取り組むというような流れでいければありがたいなと思います。

すみません、勝野さんが挙がっていましたね。失礼しました。

勝野さんの後、隣の環境省さんも何か一言コメントがあれば、お話しいただければと思います。

○勝野参事官 ありがとうございます。座長も触れられていたんですけども、今日の議論の大きな軸に、情報発信、それからコミュニケーションというお話があったと思います。組織委員会さん、非常に遠慮深いので、あまりおっしゃっていないんですけども。随分、NGOさんなり、さまざまな団体さんが主催される説明会なり、イベントなりに、組織委員会のスタッフの方が出て行って講演されたり、そういうことを随分積み重ねていらっしゃるのを拝見しております。

例えば、人権の話が出ましたが、土井委員も参加されていましたが、昨年も秋に、IHRB、Institute for Human Rights and Businessという団体さんが、東京でセミナーを開かれて、国際的なNGOさんも随分参加されて、組織委員会も参加されておりました。我々も参加したんですけども、そういったコミュニケーションの場というものは随分ありましたし、あるいは、日弁連さんが主催されたようなイベントでも、オリンピック・パラリンピックがテーマになったものがありまして、そこでもビジネスと人権がテーマになりまして、そのときも、組織委員会さんも参加されておりました。このような形で、現場では随分コミュニケーションされているんだと思います。

それが、私も本体にどう書いてあるかなと思って拝見したら、そういった取組にはあまり触れられていないんです。なので、もう少しそういった場に出て行って、しっかりと発信していますよということも、具体的な固有名詞は書かなくていいと思うんですけども、

書かれたら良いのではと思います。それがまさにコミュニケーションの一つのツールになっているんだろうというふうに見ておりました。

○崎田座長 どうもありがとうございます。

環境省さんは、一言いただけますか。

○後委員（松本委員代理） 環境省といたしましても、持続可能性というものは、確保するだけではなく、ターゲティングを明確にして、きめ細かに情報発信をしていくことが大事だと考えております。我々といたしましても、一緒に動ける部分が多くあるかと思しますので、協力していければと考えております。

○崎田座長 どうもありがとうございます。

小西さん、まだ挙がっていましたね。

あと、東京都さんも一言ずつ言っていたいて、前半の話を締めたいと思います。

○小西委員 すみません。ちょっと、タイミングを失ってしまったんですけど。1点だけ、この生物多様性のところで。こちらの資料3でいきますと、25ページなんですけれども。調達ワーキングでも、前回ちょっと私は出席していませんが、そのときに「森林減少ゼロ」という言葉も一つ目標の中に入れてはどうかという御意見があったと思います。これ、実際にSDGsの目標の15.2にも明確に書かれていますし、パリ協定にも入っている言葉です。

それも調達ワーキングの中の一つだけじゃなくて、この全体にかかる話ですので、ここに、どこに入れ込むかはまた御検討の材料だと思うんですけど、今見ている限りにおいては、一番なじむのがこの25ページの生物多様性のところの目標3で、「大会の調達における環境汚染の防止や森林減少ゼロ、生物多様性などへの配慮により」みたいな形で、ここに一つ、「森林減少ゼロを目指す」という言葉が入って、全体にかかるようにするということはいかがでしょうか。

○崎田座長 実は、その議論、資源管理のところでもやりまして、資源管理の資料の13ページのところで、「サプライチェーン全体で資源をムダなく活用し、資源採取による森林破壊・土地の荒廃等と、廃棄による環境負荷をゼロにすることを目指して、全員で取り組む」という文言に入れてあるんです。ちょっと、参考に御検討いただければと思います。どうもありがとうございます。

じゃあ、田中さん、若林さん、一言お願いします。

○田中運営担当部長 資料の3の26ページの中でも東京都の取組を御紹介いただいております。

まして、「東京都GAP認証制度」というものを3月に東京都のほうでも立ち上げたところでございます。

これを踏まえて、例えば東京都でも農業者とのシンポジウムを通じた情報交換等も行っておりまして、その中で、例えば、実は農業分野では、労働災害の数字が今まであまり減っていなかったというようなどころも関係者で情報共有を新たにしながら、取組を始めているところでございます。

大会に向けまして、東京都もそうですし、全国でもこういった各都道府県のギャップ、それからグローバルギャップの取得の取組は非常に増えていますので、今、情報発信というようなお話がありましたけれども、既にそういう取組はかなり出てきておりますので、そういうものは積極的にPRしていてもよろしいのではないかと考えております。

それから、先ほど、グリーンバンスのお話もありましたけれども、対話の機会というものは非常に重要だと思っております。組織委員会が通報制度を立ち上げることに合わせまして、東京都のほうでもオリ・パラ関連について、窓口をつくりまして、ともに協働でやっっていこうと思っておりますので、そういった部分もしっかりと進めていければいいと思っております。

○崎田座長 ありがとうございます。

若林さん、一言お願いします。

○若林環境政策担当部長 東京都環境局でございます。計画を見させていただきました。第一版以降の動き、それから、前向きな数値目標等も定められておりますので、現時点はこれでよろしいのかなと思っております。

また、環境局としましても、この実施の段階に移りまして、各局の取組も支援しながら、東京都として取り組んでいきたいと思えます。

以上です。

○崎田座長 ありがとうございます。

今日は皆さんから全体を見た、かなりしっかりと、大事な今後に向けた御意見をいただきまして、ありがとうございます。

委員の皆さんは、まだこの後、検討が続きますので、このままお残りいただければと思います。

それで、事務局のほうから、資料5の今後のスケジュール等を御説明いただいて、そのほか何か御報告があればということでお話しいただき、第一部は終了したいというふうに

思います。よろしくお願いいたします。

○事務局 それでは、資料5の今後のスケジュールを御説明させていただきます。

こちらの表については、何度か御提示させていただいておりました、スケジュール全体については変わってございません。一番下の太字で書いてある部分について、今回御説明をさせていただければと思います。

本日、ディスカッショングループで御議論をいただきました後、4月の中下旬以降、パブリックコメントを実施させていただく予定でございます。本日、御意見いただいた部分を、そのパブリックコメントの前に反映できる部分と、それからその御意見を含めて、最後、5月中旬にパブリックコメントを踏まえたディスカッショングループを予定しておりました、そちらで御提示させていただく部分と、ちょっと、全体のスケジュール等もございますので、そういったところも含めて、検討させていただければというふうに思っております。

また、そういった内容により、各ワーキングでの審議が必要な場合につきましては、ディスカッショングループの前にワーキンググループも検討させていただければと思ひまして、スケジュール的に若干厳しい部分もございますので、そういった辺りも、進め方について御相談をさせていただきながら、6月の策定に向けて進めてまいりたいというふうに思っております。

以上でございます。

○崎田座長 どうもありがとうございます。

今日の最初のほうでは、やはり皆さんから、これまでかなり話し合ってきましたので、こういうことを実際に、オリンピックそのもの、オリンピック・パラリンピックそのもの、そして社会に発信力を強めるためにも、しっかりコミュニケーションツールとして、どういようなしっかりとしたキラーコンテンツというか、わかりやすい、一歩先行く取組をどういふふうにつくろうとしているのか、もうちょっと明確にしたらどうかという、コミュニケーションのところを強調するよというお話などありました。そういうものを踏まえて、少しこの後、第二部も大事な継続のお話ですので、お話をしていきたいというふうに思います。

それでは、第一部はこれで終了したいと思いますので、どうもありがとうございました。失礼します。

それでは、第一部、これで、申し訳ございませんけれども、第二部は非公開で実施した

いという話が出ておりますので、委員の方及び事務局以外の方は御退席いただければと思います。

2020大会の持続可能性の配慮に向けた取組を包括する発信の方法に関して、これから私たちはお話を続けたいというふうに思っております。よろしくお願いいたします。

(休憩)

○崎田座長 それでは、第二部ということで進めていきたいというふうに思います。

やはり、先ほどからも申し上げているように、大会の持続可能性の配慮に向けた取組を包括する発信について、事務局から御説明をしていただくということで。実はこれ、書いてありますが、会議後回収ということになっておりますので、よろしくお願いいたします。

○事務局 それでは、事務局より御説明をさせていただきます。

今回、大会の持続可能性の配慮に向けた取組を、全体を含んだキーメッセージについて、事務局から御提案をさせていただきます。御意見をいただければというふうに思っております。

資料の1ページ目でございます。こちら、運営計画の第二版の策定時が、やはり一つメッセージを発出する非常に重要な機会と考えておりました。第二版を策定するとき、あわせて公表していきたいというふうに考えております。

このキーメッセージの使用につきましては、関係の団体の皆様も含めて、どう活用していくかというところを今後検討させていただくとともに、先ほどの御審議でいただきました、我々のもう既にいろいろやっている取組も含めて、それも併せて、そのキーメッセージを使っていくというその方法についても、まさにこれから検討させていただくべき内容だというふうに考えております。

今回、非公開という形で御審議させていただくということで、こちら、商標の関係も確認しながら進めていきたいというふうに考えております。今回、案を三つ提示させていただいておりますけれども、その案の方向性をある程度いただきながら、商標の確認ができるような形で、できれば進めていきたいというふうに考えておりますので、そちらについても御協力をいただければというふうに思っております。

過去大会のキーメッセージにつきましては、こちらで御紹介させていただいておりますけれども、ロンドン大会では「One Planet Living」、「地球1個分の暮らし」という言葉でございます。平昌大会におきましては、「New Horizon for Sustainability」と、それ

に副題がこのような形でついているというものが過去の大会の例でございます。

2ページ目でございます。こちらにつきましては、改めての御説明になりますけれども、私どもがサステナビリティに、総合的に、統合的に取り組んでいくというものでございます。既にこれまでの御議論の中で、各五つの主要テーマのキーメッセージについては、このような形で御審議をいただいていたところでございます。これらも含めて、大会のメッセージをどのように発出していくかということで、今回御提案をさせていただくものでございます。

3ページ目をお開きいただければと思います。前半のキーワードの作成の背景は、今、御説明したとおりでございます。大会の影響を踏まえて、わかりやすくキーメッセージを伝えていきたいというところでございます。アプローチの方法といたしましては、持続可能性の観点を、特に地球・社会・人間といったこういった各観点を考慮していくということと、これまでの各五つの主要テーマを包括していくもの。また、短い言葉で伝わりやすいメッセージとしていくこと。また、当然レガシーということも含めまして、私どもの取組が、未来に向けて貢献していくという視点がまずある一方、これまで第二版の取組の中で、既に私どもが克服してきた、取組をしてきた日本あるいは東京の中の取組、そういったものですか、実績の考慮を含めて、メッセージに込めていけたらというふうに考えております。

また、世界への発信という観点から、英語についてもきちんとワーディングの正しさというものを考えていきたいというふうに思っているところでございます。

具体的な案といたしまして、4ページ以降に御提示させていただいております。

一つ目が「Be Better, Together」というものでございまして、副題、サブメッセージといたしまして「For the Planet and the People」というもの。または「Tokyo's Sustainable Past Present and Future」というところでございます。こういった地球と人間といった観点、また、過去から未来へといった観点も含めた取組でございますけれども。

下の考え方といたしましては、「ともに」というようなメッセージを込めまして、一般の方々との同じ目線という視点を強調してございます。

また、五つの分野で、ともに取り組んでいくということで、相互に連携しながら、主体的に取り組んでいくという表現であるとか、あるいはSustainableという言葉は直接使わずに、PlanetやPeopleといった言葉で持続可能性を表現しております。また、過去を含め

てよりよくしていくということで、Betterという表現。あるいは、将来に向けての地球的な広がりといったところも含めればというふうに思っております。社会や人間と関わりながら進めていくということで、Togetherという、「ともに」という言葉を表現しているものでございます。

続いて、案の2でございます。こちらで「Games for the future」という言葉を使っております。副題といたしましては「One World Sustainability Engaged」ということで、日本語では一つの世界、みんなで取り組む持続可能性ということで、こちら、Gameという言葉を用いまして、大会の主体というものに軸足を置いてございます。未来のための大会という非常にシンプルでインパクトな表現とさせていただいております。

また、「未来のための」ということではOf the Future、「Of」という単語が使われることがございますけれども、こちらをForという言葉に変えることで、未来のために積極的に取り組んでいくということを強調しているものでございます。サブメッセージで、Engageの言葉を使いまして、世界の全ての年齢層も含めた、幅広く持続可能性の取組の御参加を呼びかけるという表現としてございます。

最後、案の3でございます。こちらが「Future Focused Tokyo 2020 Sustainability Goals」と表現してございます。こちらにつきましても、副題につきましても、一つ目にも出てきておりますけれども、東京の過去から未来へとといった視点と、それから、「Today's Success into Tomorrow's Outcomes」ということで、今日から明日へとつなげると表現しております。

日本語では、「Future Focused」はそのまま使いつつ、「ゴールを見据える私たちの未来」ということで結びまして、副題として「持続可能性への取組、これまでも、これからも」ということで御提示いたしております。

こちらは、Futureという言葉強調しまして、レガシーに軸足を置いた表現としております。Future Focusedということで、未来志向という言葉掲げつつ、これまでの取組というものもしっかりメッセージに込めつつ、ゴールを定めて取り組んでいく姿勢を表現しております。今回スポーツ大会というところも生かしまして、いわゆるスポーツの中のゴールという概念と、目標のゴールという概念もかけ合わせて、共通の目標に向かって取り組んでいくことを表現してございます。また、大会とその先を見据えて、我々がその責任をしっかりと見据えてその責任を果たしていくことを表現しているというところでございます。

以上、3案の御説明でございます。

○崎田座長 ありがとうございます。

ここまで内部で検討いただいて、3案出していただいたということで、これを、少し皆さんから御意見をいただきたいということですが、今日、出てきたばかりですので、今日、決定するということまで行くことは難しいと、もちろん思いますが。例えば、どの案がいいねとか、少し皆さんの御意見はしっかりと伺いしておいたほうが、この後の組織委員会の取組方としてありがたいというふうに思っています。

まず、委員長からいきますか。

○小宮山委員長 コピーは苦手なのです。SDGsってこれだけ言っているのだから、SDGsというものを入れてもいい気がします。例えばGames for SDGsというものはあるかも。全然、強い意見ではありません。

○崎田座長 ありがとうございます。

今の御意見、SDGsを今回しっかりと見据えると、これだけ言ってきているので、SDGsという言葉が入ってもいいんじゃないかという、そういうような御意見が出ました。ありがとうございます。

ほかに、こういう、1、2、3に入らない、おさまり切らないけれども、こういうという御意見で構いません。

○小宮山委員長 見てみると、ロンドンも平昌も同じです。要するに、宇宙船地球号って言ってもいい話です。だから、どうなのでしょうね、もう一回言うのというのは、何か欲しい感じがしないでもないね。One Planetなんて宇宙船地球号そのものです。

まあいいです。あまり悪口言うにつくれなくなるから。

○崎田座長 小西委員から、挙がりました。

○小西委員 前、WWFから出させていただいたものは、One Planet, One Futureというもので出させていたおりました。一つの未来に向かって、一つの、まさに宇宙船地球号ですね。

○崎田座長 One Planet, One Futureですね。ありがとうございます。

細田委員、感触でいいのです。

○細田委員 私もこういうものは全くだめなんですよね。ただし、ふと思ったんです。小宮山先生は、それは宇宙船地球号だろうとおっしゃったけど、今知っている人はいないんじゃないですか、もう。

○小宮山委員長 いないのですか。

○細田委員 だから、もしかしてOne Planetって新鮮なんじゃないですか、ひょっとして。先生や私は、何だまたと思うかもしれない。これはオールド・ジェネレーションの印象なんじゃないですかね。

○小宮山委員長 そうでしょうか。

○細田委員 だから、結構いいのかもしれない。

○崎田座長 宇宙船地球号でもいいんじゃないかという御意見もありました。

こういう皆さんの感触で構いませんので。

関さん、何かありますか。

○関委員 代替案は、今すぐには浮かばないんですが、見せていただいた案の中では、これはもう、好みの問題ですが、案1のしかもfor the Planet and the Peopleですかね、副題のほうは。やっぱりPeopleと入ったほうがいいと思いますから。Be Better Togetherで、Planet and Peopleというものが、この中ではいいかなと思いました。ちょっと、代替案はすぐには思い浮かびません。

○崎田座長 ありがとうございます。案1のBe Better Together for the Planet and the People、この辺がこの中では一番共感できるんじゃないかというお話です。

藤野さん、顔が合っちゃいましたね。

○藤野委員 私も小宮山委員長と一緒に、SDGsを入れると、結構ハイライトされる。初めてオリンピック・パラリンピックで、表題でSDGsを使うものになるので、日本への周知にもなるし、世界に対してもわかりやすいメッセージになるかな。

あと、日本的なやつでよくあるイノベーションみたいなものって、こういうものに入れないほうがいいのか、どうなのかなってちょっと思いました。

○崎田座長 ありがとうございます。

横張委員、コメント。

○横張委員 すみません、批判的な言い方で恐縮ですが、強いて言えば案1だと思うんですけども。さっきからそのエンブレムを見ていて、せっかく江戸の文化とか、江戸に根差したいろんな暮らしの知恵が、サステナブルあるいはレジリエントという文脈にあっても、非常に現代的な意味を持つんだというような文脈が取り沙汰されている中では、もう少しその辺の知恵を未来につないでいくといったようなニュアンスがあるようなキーワードはないのかなと思いつつ、言葉が何があるかなと思っているところでありまして。ち

よつと、その辺のニュアンスが弱いかなということが、1、2、3、いずれにも共通した感想であります。

○崎田座長 ありがとうございます。知恵を未来にという、その辺のニュアンスがもうちょつとあるといいなという。強いて言えば、1という御意見がありました。

皆さんから一言ずつコメントをいただいて。

じゃあ、土井委員、お願いします。

○土井委員 そうですね。私は特にはないです。

ただ、これは英語ネイティブの方が見たものなのかなということだけちょっとわからなくて。もしネイティブの方が御覧になっていろいろ意見をされているものならば、あまり言うべきことじゃないんですけど。ちょっと、英語的におかしくないかなと思うところとかがあるような気が。

2のSustainably Engagedとか、ちょっと英語としてははてなと思ったり。Future Focusedもちょっと、どうですかね。英語の方にはちょっと読み解きにくいのではないかな。未来志向、日本語だと、しっくりくるんですけど、ちょっと、Future Focusedというふうに言っていることは聞いたことがないとか、そういうもやもやしたものはあるんですけど。それぐらいです。

○崎田座長 とりあえずネガティブチェックは必ず入れる……

○土井委員 ネイティブチェックですね。

○崎田座長 すみません、ネガティブじゃない、すみません、ネイティブチェック。

○土井委員 ネイティブのコピーライターさんにぜひ。

○小宮山委員長 ネイティブもちゃんとしたネイティブでないとだめだよな。

○土井委員 そうですね。コピーライターのネイティブさんに、ぜひ御相談されてはいかがかなと思います。

○崎田座長 黒田さん、何かコメントはありますか。

○黒田人権労働・参加協働WG座長 そうですね。英語に関しては土井委員がおっしゃったことと私もほぼ同じような感想を持ちました。

どれがいいかと言われると、ちょっとすぐには思い浮かばないんですが。それぞれ、よさもあるような気がして、ちょっと、決め切れないなという気がしました。

この案3のFuture Focusedのところですけど、東京2020 Sustainability Goalsというのは、これはSDGsのことを暗に言っているのかなと思いましたが、ちょっと、全体的にわ

かりにくいかなというふうに思いました。

すみません、何がいかという御質問に対しては、ちゃんとお答えできていませんけど。

○崎田座長 ありがとうございます。

立場を背負って御参加の皆さんは、何か特にコメントがあれば、個人の資格で御発言いただくということで。

じゃあ、勝野さん、お願いします。

○勝野参事官 センスがそんなにあるわけではないので、皆さんの御意見を聞きながら思ったことは、やはり、ロンドンと平昌を比べて見ていると、ロンドンのほうが短いので、頭にすっと入ってくるなと思って見ていました。やはり、ぐちゃぐちゃ長く書くと、全く覚えられないし、みんな、きっと印象に残らないなと思うと、端的に短いほうがいいんだろうというふうに思いました。

また、副題もあまり長々書くと、思いはいっぱい、皆さん込めたいことがあるんだと思うんですけど、きっと伝わらないということを考えると、どれがいいということは言わないですが、短いほうがいいと私は思いました。

あと、さっき皆さんの意見を聞きながら、古きを知りて新しきを知るということわざがあったなと思って、これ、英語で何て言うんだろうと調べかけていたんですけど。温故知新とか言ってしまうと、ありきたりになってしまうのですが・・・。何かそういう日本らしさというものが出るものが良いのかなと思いました。

○小宮山委員長 そうしたら「温故知新」と書けばいいのです。漢字で。

○勝野参事官 そうですね。漢字で。あえて英語にする必要もないかもしれないと思ったりもしました。そういう、コメントです。

○崎田座長 ありがとうございます。今、漢字が結構受けているので、「温故知新」と書いたほうが関心を持つかもしれないです。ありがとうございます。

ほかによろしいですか。

(なし)

○崎田座長 ありがとうございます。

環境省さん、何か、本当はここまで出かかっている感じですが。いいですか。

○後委員（松本委員代理） 大丈夫です。

○崎田座長 ありがとうございます。

私の意見を一言言わせていただくと、日本は小学校から英語が義務教育化するという大

きな時代の変化の中で、小さい子もぱっと見るとわかるみたいな、みんなが口ずさむというのいいのかなという感じがありまして。私も案1のBe Better Togetherって、簡単なんだけど、これだと子どもも口ずさめるかなみたいな印象は……。

○小宮山委員長 Better Togetherじゃいけないですか。英語にならないでしょうか。

○崎田座長 じゃあ、ネイティブチェックしていただいて。Better Togetherだと、みんな……。Be Better Together our SDGsとか、何か私たちのSDGsってその後につけるとか。

何かちょっと、とにかく短くて、わかりやすくて、でも、さっき委員長がおっしゃったような、せっかくSDGsってこれだけこだわっているのに、やっぱり、そこをこだわっているんだということをもう少し明確にしてもいいんじゃないかということは私も思いますので。今のものは私の意見という感じで。

皆さんからもかなり、案1のわかりやすさとか、明確なものに賛同する御意見も多く、かつSDGsのキーワードとか、あと、温故知新の古きをたずねの精神をもう少し入れてはどうとか、そういう意見が出ました。このくらいの形でお戻しをして、御検討いただきたい。いいですかね、もっと。

それと、商標登録の可能性もあるということで、商標登録はもう、今日この資料が出ましたので、幾つかの可能性を全部、取ってしまうということもありかなという感じがします。決めてから取るんじゃなくて、そういうことはだめですかね。そんな感じもします。

とりあえず、こちらの意見はこうということで、事務局のほうでどういうふうを受け止めるか、ちょっと、コメントをいただければと思います。

○事務局 ありがとうございます。いただいた御意見をなるべく多く反映して、見直しをしていきたいなというふうに思っています。

このキーメッセージは、6月に発表する運営計画と同時に出していきたいんですけども、そこにとどまることなく、その後、持続可能性のメッセージを発信するときに、何度も出して行って、皆さんの頭にきちんと残るような形にしていきたいというふうに思っております。

○崎田座長 ありがとうございます。

それで、今ふと思ったんですが、このどこかのキーメッセージ、例えば案1だと、Be Better Togetherでありますけれども、その下に、キラーコンテンツをいつも10個ぐらいさっと並べておくとか、何かそういう出し方もあるのかなという感じはしますので、検討いただければ。そうすると、社会みんながわかりやすいというか、あ、こんなことをやり

ながら、考えているんだって。10個も出すと大変なら、五つとか、何かそんなふうな出し方もあるんじゃないかなという感じがいたしますので、検討いただければと思います。

委員の皆さん、何かコメント、よろしいですかね。

(なし)

○崎田座長 それでは、最後に私のほうから、山本副事務総長、いつもこの委員会はこういう感じで、皆さんで盛り上がりますが、本当に受け止めて取り組んでいただければと思います。よろしくをお願いします。

○山本副事務総長 ありがとうございます。今日も大変熱心な御議論をいただきまして、2番目の議題は大変難しい議題でございましたけれども、参考にさせていただいて、しっかり詰めていきたいと思っております。

年度も変わりまして、実は組織委員会、この4月1日に600人ぐらい採用いたしまして、今現在1,805人という体制になっております。大会準備も非常に具体的実務の段階に入ってきて、大会基本計画の中でいうところの計画の最終段階が2018年度ということでございますので、実務を最後詰めていくというところでございますので。

今この持続可能性に配慮した大会にするということを、こちらの事務局、総務局に昨年移したんですけれども、そこにとどまらず、各FAが実務の中で、先ほど細田委員からもありましたように、具体的に施策の積み上げとして、何をすればこれが達成できるのかということをしっかり詰めていく、いよいよ段階に入ってきたというふうに思っておりますので。話題としても、聖火リレーだとか、あるいはマスコットだとか、チケットだとか、国民の本当に関心の強い分野に入ってきておりますので、しっかりその実務を詰めていきたいなというふうに思って、反映をさせていきたいと思っております。

それから、今日、大変、御議論いただきましたコミュニケーション、情報発信の部分についても、これをしっかり、今度のオリンピック・パラリンピックは違うんだということをしっかり発信できるような工夫をしていかなければいけないというふうに思っておりますので、そこら辺を強く、上手に発信していけるように、さらにちょっと、検討を進めていきたいと思っておりますので、今後とも御指導のほどよろしくお願い申し上げます。

本日はありがとうございました。

○崎田座長 山本副事務総長、ありがとうございます。これから、また、皆さんでいろいろお手伝い、あるいは一緒にやらせていただけたところをどんどん進めていければというふうに思います。よろしくをお願いします。

今日は皆さん、ありがとうございました。お疲れさまでした。